
Awe

ペルタタ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Awe

【Nコード】

N4524BA

【作者名】

ペルタタ

【あらすじ】

異世界にトリップした主人公が元の世界に戻るために色々するファンタジー系の小説です。ある世界の魔術師の都合により強制的に異世界へとトリップさせられた主人公、草薙世奈（くさなぎせな）は自分をトリップさせた魔術師に元の世界に返してもらえよう頼みますが逆に魔術師の頼みを聞くことに。初めての投稿ですけど本筋から離れすぎないように頑張っていきます！よろしくお願いします。

プロローグ

彼は奇妙な夢を見た

異常といえる建造物の前に彼は立っていた

その建造物は彼が見ただけでも今まで発見されてきたどのような歴史的遺産よりも遙か太古のものであることが見て取れた
いや、実際には『感じとつた』というべきなのだろう

緑色のどろどろとした液体に覆われたその建造物は、見る者を困惑させるような雰囲気をかもしだしており、その雰囲気に惑わされるのであるうか、何も考えずに見たのならそれは石を積み上げただけのものにしか見えない

そのような建造物が歴史的遺産よりも太古のものだと感じ取れたのは、感性の豊かな彼故であろう

その建造物は例えるのなら宮殿のようであり積み上げられた石に刻まれた奇妙な象形文字がその建造物が何らかの文明の下に築き上げられたものだと言っていた

だがそれはありえない、ありえないのだ
なぜならその石造りの建造物は人間には すくなくとも象形文字から察した時代の人間には 確実に建造不可能であったからだ
簡単な形だけならばその建造物を造りだすことはできたであろう
しかし規模が違う

人間が作る宮殿とは、規模が違うのだ
その違いは大きさにある

人間の造るものと比べると、一つ一つの石が大きすぎる

建造の方法にしても、ピラミッドのように頂点に行けばいくほど小さく、細くなるのではない

下から上まで均一な太さの柱をはじめとして、おおよそのものが目立つような隙間がなく、綺麗に石が敷き詰められており、石を上ま
で運ぶ方法が見つからない

たとえ運ぶ方法が見つかったとしてもここまで大きな石を、見ただけで大質量なこれらの石をあの高さまで持ち上げることは不可能だろう

まるで巨人が作ったかのようなのである

その表現は正しいのかもしれない

その建造物には、かすかに見える程度ではあるけれども、人間のものとは考えられないほど大きな足跡のようなものが残っていた
だが、その足跡には長い爪のようなものがついており、足跡からはこの建造物を築き上げた者がどのような姿なのか想像することは容易ではない

しかし、この建造物の異常な点はそこではない

最も異常なのは声である

その建物の内部から声が聞こえるのだ

声と表現していいのかさえもわからない

理解はもちろん、人間には発音さえも不可能であろうその声は、聞いて
いるだけでも頭が、神経がおかしくなりそうである

発せられているからにはその声もなんらかの意味を持っているので
あるのだが、聞き取れないためその声の意味することは分からない

この建造物は声も含め、すべてが人間には実現も理解も不可能なのだ
彼がここまで理解できたことが不思議に思えるくらいに

そこまで考えたとき、どこからか声が聞こえた

「ほお、意識を保っている人間がまだいたか。」

頭に直接響くような声は、彼に老いた男性を連想させた
若干喜びを含み、声は続けた

「丁度いい、あと一人いないかと思っていたところだ。」

その声をきっかけに、建造物は崩れ始め、声はしだいに聞こえなくなっていく

そしてすべてが消え去った時、声が彼を夢の世界から現実へと追いやる

「待っているよ、草薙世奈。すぐにお前を迎えに行くからな。」

プロローグ（後書き）

はじめまして、ペルタタです。

あらすじにもある通り、初めての投稿です。
だいたい週一で更新しようと思います。

悪い点があったら教えてください、直していけるよう頑張ります。
今までは友達に見せるくらいだったので緊張してるとです。

わかる人はわかると思いますが、この建造物はある怪奇小説の建造物と酷似しています。でもまあ、この小説は怪奇小説ではなく、表現や用語だけです。そういうわけで二次創作ではありません。ごめんください。

それでは、今後ともよろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4524ba/>

Awe

2012年1月12日06時53分発行